

| 論文審査の結果の要旨および担当者 | |
|--|---|
| 学位申請者 | 内山 侑紀 |
| 論文担当者 | 主査 越久 仁敬 |
| | 副査 芳川 浩男 |
| | 副査 新村 健 |
| 学位論文名 | Botulinum Toxin Type A Treatment Combined with Intensive Rehabilitation for Gait in Post-Stroke: A Preliminary Study (脳卒中の歩行に対するA型ボツリヌス毒素治療と集中的リハビリテーションの併用：予備的検討) |
| 論文審査の結果の要旨 | |
| <p>申請者は、脳卒中患者の下肢痙縮による歩行障害に対して、A型ボツリヌス毒素治療と集中的リハビリテーションの併用治療の有効性を検討するために、併用治療群と集中的リハビリテーションのみの単独治療群において、その効果の比較検討を行った。対象は下肢痙縮のA型ボツリヌス毒素治療のため入院した脳卒中患者19名。グループⅠ(9名)ではA型ボツリヌス毒素治療を実施後、集中的リハビリテーション(6単位/日×5日間/週)を4週間提供した。グループⅡ(10名)ではまず集中的リハビリテーションのみ4週間提供し、その後A型ボツリヌス毒素治療を実施、さらに4週間の集中的リハビリテーションを提供した。A型ボツリヌス毒素治療においては合計300単位を上限とし、痙縮の程度に応じて薬剤を配分して対象筋に投与した。痙縮評価として足関節底屈筋群のMAS、足関節背屈ROM(Range of Motion)、機能評価として最大歩行速度(10m歩行テスト)、6分間歩行テスト、Timed Up and Goテスト、Berg Balance Scale(BBS)を用い、治療前後4週ごとに評価を行った。結果、評価項目のグループ内比較では、グループⅡのBBSを除き、グループⅠとⅡの全ての評価項目が治療前後で有意に改善した。グループⅡではA型ボツリヌス毒素治療併用前の前半4週に比べ、A型ボツリヌス毒素治療併用後の後半4週では、最大歩行速度や6分間歩行テスト、TUGが改善する傾向が認められた。グループ間比較では、4週間後評価においてグループⅠでMASおよびROMが有意に改善し(p=0.016およびp=0.011)、6分間歩行テストが有意に改善した(p=0.009)。</p> <p>本研究は、脳卒中患者の下肢痙縮に対するA型ボツリヌス毒素治療と集中的リハビリテーションの併用治療がリハビリテーション単独治療より効果があること、6分間歩行テストが歩行能力改善の指標として有用であることを示した点で学術的な意義があり、学位授与に値すると評価した。</p> | |